

平成23年度愛知県介護支援専門員支援会議からの提案です。業務の参考にしてください。

## 介護支援専門員の基本姿勢10か条

- 1 常に利用者の自立支援をめざします。

自立支援の視点は、介護保険制度の根本理念です。

- 2 自立支援のための的確なアセスメントを実施します。

利用者の全体像、現在の状態と今後の可能性を正しく把握し、利用者に起こっている原因と背景、状態、問題、意欲を明らかにし、特に、利用者の強みに着目し、自立支援に結びつけます。

- 3 利用者の人権を尊重し、護ります。(守ります)

人権の尊重と擁護の姿勢は最も重要な視点です。

- 4 利用者の主体性を尊重し、意欲や力を引き出す努力をします。

利用者の意思を大切にし、利用者の自己決定を尊重します。

- 5 地域や施設、家庭における利用者の本人らしい役割を考えます。

- 6 常に公平中立の立場で必要なサービスが適切に選択されるよう支援します。

- 7 社会的責任を自覚し、地域社会全体の利益につながるよう業務に取り組みます。

- 8 保健・医療・福祉の連携強化を図り、地域包括ケアシステムの構築に努めます。

- 9 常に個人情報の保護と活用に努めます。

- 10 専門職として常に自己研鑽に務めます。

## アセスメントの手順

相談開始・インテークから主訴を傾聴する。

〇〇ができなくなった。障害や病気により、生活に支障が出た。(困りごと及び主訴)



〇〇できていない原因を明らかにするために



利用者・専門職・ケアマネジャーとの協働作業

現在●●の状態である(生活機能を把握し、整理する) ICFの活用



問題からの課題の明確化

〇〇できていない原因・要因を明らかにし、課題(改善要素を導き出す)を設定する。  
課題分析・アセスメント



利用者・家族から聞き取る。生活歴から推測。

本人は、今までどんな生活を送ってきたのか。  
どんな生活を送りたいのかを具体的に把握する。  
(本人の考え、意向、生活歴からの提案など)

実現の可能性の説明  
ICFの活用  
活動と参加  
意欲を引き出しながら  
問いかける。提案する。



利用者・家族とケアマネジャーの協働作業  
専門職との協議

大きな生活の目標(人生の目標)を立てた上で  
日常的な実現可能な生活の目標を考える  
(生活ニーズを明確にする)

活動と参加、背景因子

〇〇できるようにする。〇〇したい。〇〇を行う。(意欲を引き出す)

そのために、アセスメントを活かす。  
生活機能の正しい活用と自立支援のためのサービス提供